

登り吹き付け 土木体験

諫早
「デミーとマツ」指導



デミーとマツの出水さん(写真右)と松永さん



土木の大切さや魅力を伝える活動をしている出水さん(37)と松永昭吾さん(47)の土木技術者ユニット「デミーとマツ」主催の体験イベントがこのほど、諫早市平山町であった。ユニットは、長崎大職員で西彼長与町在住の出水さんと、佐世保市出身で共同技術コンサルタント福岡支店長の松永さん。昨年九州各地の土木関係者とい

ベントを実施しており4回。県と田中工業(島原市)らの協力を得て、建設中の一般県道諫早外環状線脇にあるのり面工事現場を会場にした。

のり面とは、盛り土などで作られた人工的な斜面や自然斜面を指し、大雨や地震による落石や崩壊を防ぐ工事がなされる。現場には家族連れや夫婦、工事関係者の家族ら約40人がヘルメ

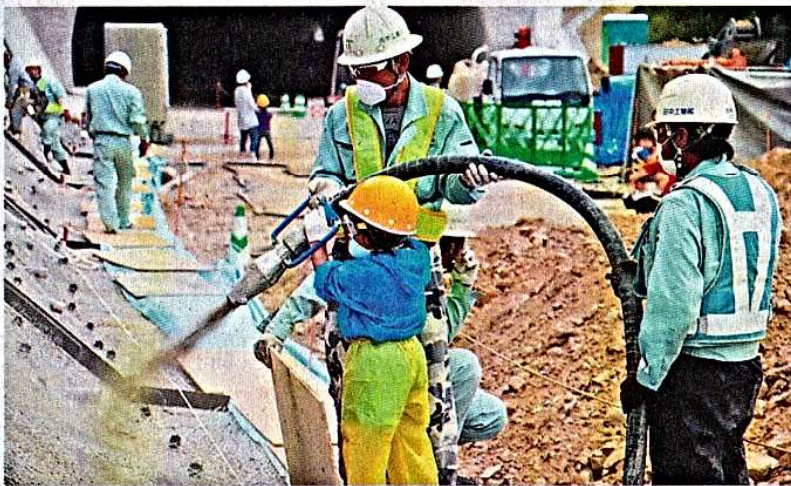
技術、身軽さ「格好良い」

ツト姿で集まった。田中工業の末岡一貴さん(53)らが、モルタル吹き付けのホースを持つ「ノズルマン」が一人前になるには約3年かかることや、ホースには約7キログラムの圧力がかかることなどを説明。「ご安全に」の掛け声で参加者が体験を始めた。

参加者は工事現場の面積を測り、傾斜約45度ののり面でロッククライミングを体験。砂とセメントと水を混ぜてつくるモルタルの吹き付けの実演を見て、支えてもらいながらホースを手にした。

家族で参加した長崎精道小3年の戸口楓さん(8)は「最初(ロッククライミングなどが)少し怖かったけれど、やってみたら面白かった。のり面を身軽に動くんお兄さんたちが格好良かった」と話した。

(柴田英樹)



⑤モルタル吹き付けを体験する子ども

④のり面で行われたロープクライミング体験